

清瀬の近現代—大正・昭和・平成—

明治26年（1893）に東京府に編入した清瀬村は、大正6年（1917）に秋津駅、同13年（1924）に清瀬駅が開業し、その間の大正8年（1919）には電灯が市内に引かれ、徐々に近代化していきました。大正時代末期の人口は3344人となり、明治時代初め頃の人口の約1.6倍になりました。

その後、昭和に入り、昭和6年（1931）には、西武池袋線と志木街道が交差する南側に東京府立清瀬病院が開設されました。これを機に結核関連施設が周辺に建てられ梅園・松山・竹丘に広がる病院街が誕生することになります。第2次世界大戦を経て、昭和29年（1954）清瀬町になり、この頃の人口は14,544人になり、明治時代初め頃の人口の約7倍になりました。



清瀬町役場 昭和44年頃



旭が丘団地 昭和47年頃

その後、昭和37年（1962）には野塩団地や竹丘団地、昭和42年（1967）に旭が丘団地などの団地が数多く誕生し、清瀬市は東京近郊のベッドタウンとしての役割を果たすようになります。その結果、昭和45年（1970）には人口は約5万人に近

くなり、この年の10月1日、清瀬市が誕生しました。

平成に入ると、平成2年（1990）にはキョセケヤキロードギャラリーができ、平成7年（1995）には清瀬駅北口再開発事業がそれぞれ完成して、駅周辺が整備されていきました。そして、平成20年（2008）には、毎年夏の名物となっている清瀬ひまわりフェスティバルが始まりました。

清瀬市の大正・昭和・平成略年表(主要なもののみ)

年代	西暦	出来事	人口(人)	
大正	4	1915	武蔵野鉄道秋津駅誕生。	3,587
	8	1919	市内に電灯が引かれる。	3,705
	10	1921	清瀬郵便局が上清戸に誕生。	3,137
	13	1924	武蔵野鉄道清瀬駅誕生	3,373
昭和	6	1931	東京府立清瀬病院できる	-
	16	1941	清瀬昇進小学校が清瀬国民学校になる	
	18	1943	東京府と東京市が合併し、東京都になる	
	20	1945	4・7月に爆撃を受ける 8月終戦	
	22	1947	清瀬国民小学校が清瀬小学校になる 清瀬中学校が開校	
	28	1953	芝山小学校が開校 清瀬駅まで複線化する。(34年には清瀬～秋津駅間複線化)	-
	29	1954	4月5日 清瀬村が清瀬町になる。	14,544
	37	1962	野塩・竹丘団地が誕生	17,863 (昭和35年)
	38	1963	清瀬第三小学校開校	-
	39	1964	住居変更で松山・竹丘・梅園がそれぞれ誕生	24,287
	40	1965	第二中学校開校 上清戸の一部が元町に名称変更	30,895
	42	1967	住居表示に旭が丘が誕生 旭が丘団地ができる。 清瀬第五小学校、清瀬第三中学校開校。清瀬駅に南口が誕生。	37,287
	45	1970	清瀬市(10月1日)が誕生 住居表示に下宿が誕生 清瀬第六小学校開校、清瀬駅が現在の橋上駅になる	49,115
	46	1971	清瀬第七小学校開校	50,981
	47	1972	台田団地ができる。	
	48	1973	市役所新庁舎誕生、清瀬第八小学校開校 都立清瀬高校誕生、武蔵野線開通	
	49	1974	中央図書館開館、清瀬第九小学校開校	
51	1976	清瀬市民センター、清瀬第十小学校開校	59,985	
61	1986	金山緑地公園誕生	64,099	
平成	2	1990	キョセケヤキロードギャラリーができる 秋津駅北口完成	66,245
	6	1994	金山調節池の誕生	67,027
	7	1995	清瀬駅北口の再開発事業完了	67,273
	14	2002	清明小学校開校	67,769
	20	2008	この年から清瀬ひまわりフェスティバルが開催される	72,427